



2021年3月15日発行
 公益財団法人仙台YMCA
 〒980-0822
 仙台市青葉区立町9-7
 Tel 022-222-7533
 Fax 022-222-2952
 www.sendaiymca.org
 発行人 / 村井伸夫
 編集人 / 松島晃子

仙台青年

SENDAI YMCA NEWS



「サフディーカー」懐かしい顔がスクリーンに映し出されました。日本時間よりも2時間遅いタイからです。

昨年引き続き今年も、新型コロナウイルス感染拡大により、タイにあるYMCAパヤオセンター(以下パヤオセンター)との交流プログラム(タイ農村ワークキャンプ)は中止となりました。これまで私たちは大学生を中心に、YMCAのボランティア活動への参加、そして異文化交流、タイの課題についての学びを現地タイのパヤオセンターを中心にこなしてまいりました。それが2年連続で絶たれてしまったことはとても残念なことです。そして、パヤオセンターの子どもたちやスタッフも同様に感じていました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大により、オンラインの機会が増えました。離れていても繋がることができるツールを使って、今回タイとのオンライン交流会が2月27日(土)に実施されました。日本からは過去の参加者が対象でしたが、約25人がパヤオセンターと交流を持ちました。まず、パヤオセンターの紹介や子どもたちやタイの現状について学びました。新型コロナウイルスによって、パヤオセンターでのIT推進や自給自足の動きなど、進化をしている現状を知ることができました。そして、パヤオセンターの子どもたちによる踊りの披露があり、日本の参加者も身振り手振りと一緒に踊る場面もありました。最後は質疑応答のセッションがあり、日本からタイの子どもたちへ様々な質問がありました。

今回、パヤオセンターとのオンライン交流会を初めて行いました。予定より1時間も超える交流会となりましたが、充実した時間となりました。過去の参加者は当時のことを思い出す機会であったのと同時に、現況を知るきっかけにもなりました。タイと日本をオンラインというツールでつなぐきっかけにもなりました。タイ農村ワークキャンプが早く再開され、募金に協力いただいた方々への報告や、タイでの支援活動ができることを願っています。

(報告:健康教育事業部黒田敦)

※タイ農村ワークキャンプの第1回目は、1986年3月に行われました。2016年2月には、タイ農村ワークキャンプ30回記念式典を行いました。近年のワークキャンプの内容は、村の道路作りやパヤオセンター内の環境整備(バスケットコート、フェンス補修)など様々です。

仙台YMCAの使命

私たち仙台YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の生き方に学びつつ、青少年の全人的成長を願い、このわざを東北の地に広げるための活動を行います。

共に生きる社会をめざします。

私たちは、すべての人が喜びと痛みを分かち合う、豊かな愛と希望に満ちた社会の実現に努めます。
喜びのある生き方をすすめます。
 私たちは、すべての人が、生涯にわたる学びと交わりをおし、共に成長できる生き方をすすめます。
世界平和の実現に努めます。
 私たちは、歴史をふりかえり、一人ひとりの人権とすべてのいのちが尊ばれる世界の実現に努めます。

地球環境を大切にします。

私たちは、地球環境を守り、自然と人との共存をめざします。
ボランティアの働きを地域社会に届けます。
 私たちは、人と人とのかわりを豊かに育み、隣人に伝えあう喜びの輪を広げます。
子どもたちの生きる力を育てます。
 私たちは、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、子どもたちが自発性に富み、自立心豊かでたくましい人間に育つよう支援します。

特集 卒業・卒園メッセージ

この春、晴れてご卒園・ご卒業を迎える園児の保護者様やメンバーの皆様からお寄せいただいたメッセージを紹介します。YMCAの思い出を胸に、皆様が輝かしい未来を歩まれることを、仙台YMCAスタッフ一同、心よりお祈り申し上げます。

富沢児童館

後藤優希さん / トミザワイレブン (富沢小6年)



私はYMCAの保育園で過ごして卒園し、小学校に入学して児童館に入りました。児童館にはたくさんの遊びや友だちがいて、リーダーが考えたり作ってくれた遊びやウノ、トランプ、四目並べなどでよく遊びました。その遊びの中で遊んでいたら、まだあまり話したことのない子とも仲良くなれました。児童館で一番記憶に残っている活動は、イレブンキャンプです。今年は、看板づくりをして、後輩たちが背負う児童館の看板を作りました。富沢児童館の子どもとして、たくさんの思い出を作って欲しいです。地球探検隊では、松島に行って思い出工作をしたり、定番マシュマロを焼いたり地下鉄に乗って、いろいろな場所へ行きました。また、『トミザワイレブン』として、ざる川清掃に参加し、川をきれいにして地球を守ろうと思いながら活動に取り組みました。児童館に通ってトミザワイレブンに入って、意見を出し合って決めるのは大変だったけど、イレブンやリーダーのみんなでいろいろな目標が達成できて、イレブンに入って良かったな、という気持ちになりました。私はこれからも、いろいろな活動を続けて何かみんなの役に立てるような立場にいたいです。今まで、たくさんの人たちに支えてもらいました。ありがとうございました！！

YMCAきぼう

菊池佳代さん / 宮教大付属特別支援学校高等部3年 菊池健太さん保護者



健太と仙台YMCAとの出会いは「フリッパークラブ」です。重度の知的障害を伴う自閉症の健太は、ルールのあるスポーツをすることは難しいけれど、スイミングなら楽しめるのでは・・・という気持ちで入会しました。泳ぐというよりはリーダーと水遊びをするという感じでしたが、毎回笑顔で活動することができました。そして夏はキャンプ、冬はそりすべりなど、いろいろな経験もさせていただきました。

中学に入ってからは放課後デイサービスきぼうでお世話になりました。ちょうど思春期の難しい時期で、こだわりが強くなり、困った行動をすることが多々ありましたが、リーダーはそんな私たち親子に常に寄り添い、さまざまな支援をしてくださいました。おかげさまできぼうは健太にとって安心して過ごせる居心地の良い場所となりました。友だちやリーダーと過ごした日々は健太の今後の人生の宝物です。4月から大野田はぎの苑に通うことになりました。長い間お世話になりました。

加茂保育園



小林さなえさん / ひかり組 小林ななかさん保護者

長男が1歳の時、新設されたY M C A加茂保育園に入園したのが保育園との出会いでした。それから次男、長女とお世話になり、足掛け16年になります。三人三様のわが子ですが、それぞれの個性に保育園の雰囲気ピッタリと合い、三人とも保育園が大好きで登園を渋られたことはありませんでした。働く親にとって、このことがどれだけありがたいことか…。家庭以外で子どもたちが「安心して過ごせる場所」を整えるために、職員の方がたくさんの愛情と思いやりを持って子どもたちと接してくださったおかげです。朝から晩まで保育園で過ごした長男は高校2年生となり、夢に向かって邁進中。中学1年生になった次男は保育園時代の友だちと更なる絆を深め、卒園する長女は小学校への期待を膨らませ、保育園が目指す「いきいきとして意欲(やる気)があり、思いやりのある子ども」に成長しています。16年間本当にありがとうございました。家族一同、感謝の気持ちでいっぱいです。

南大野田保育園



山泉祐子さん / 山泉凜さん保護者

娘は1歳児クラスから、5年間Y M C A南大野田保育園にお世話になりました。一人っ子で初めての子育てにわからないことや悩むこともありましたが、保育士の先生方、保護者の皆様にお世話になりながら卒園を迎えることができました。4歳児のクリスマスパシエントでは、人前が苦手で泣いて入場していた娘が、ひかり組になると、自分で「ガブリエル天使」をやりたいと言いました。役を決める話し合いのときには自分がやりたい理由を考え、「にじぐみさんのときからガブリエル天使をやりたいかった、みんなで楽しく劇をやりたい」とメモを書いて持っていました。無事にパシエントを終えると娘がこっそり「あずみさんに声が大きくでて、大きく周れる魔法のラムネをもらったんだよ。」と成功の秘訣を教えてくださいました。人前が苦手だった娘が先生方の指導のおかげで、大きく成長することができ胸が熱くなりました。Y M C A南大野田保育園で得た経験と愛情はこれからの娘にとって大きな力になると思います。5年間本当にありがとうございました。

西中田保育園



吾妻美智子さん / 吾妻夏海さん保護者

私の長女がY M C A西中田保育園に入園したのが2008年4月。その当時、私は初めての子育てと仕事、家事との両立に不安だらけの日々を過ごしておりました。そんな私に当時に担任の先生は、親身になって対応してくれました。そんな先生のことを娘も大好きで、離れた時間も安心して保育園で過ごしていた事、今でも忘れずに覚えています。あれから二人の娘が保育園にお世話になり今年、三女が卒園を迎えました。私たち家族は、沢山の行事やイベントに参加させていただきました。そして多くの職員の方々と会話をしたり相談したりと楽しい時間を過ごしてきました。様々な職員の方に出会い、子供と共に私も成長したと思っております。五感に触れ、自然を楽しみながら過ごせた保育園生活は、子供たちにとってとても良い経験でした。慣れ親しんだ保育園生活も終わりになり寂しいですが、大切な思い出として忘れず過ごしていきたいと思っております。

YMCA 幼稚園



安達麻里子さん / 安達司さん保護者

「子どもの成長はあっという間」という言葉をこれまで子育ての先輩方からたくさんお聞きしてきましたが、卒園を迎えた今、心の底から実感しています。YMCA幼稚園には我が子二人が通算 6年間お世話になりました。二人とも入園当初は母と離れられず涙の登園でした。行きたくない病の我が子との攻防戦を繰り返す毎日。やっとの思いで、幼稚園の門の前に立つ園長先生のところまで辿り着いた時、その温かい笑顔にどれだけ救われたかわかりません。園では大勢の先生方が声を掛け見守り、時間をかけて幼稚園を大好きな場所にしてくださいました。今では後ろを振り返ることもなく、かけ足でお友だちの居る教室に向かって行きます。入園前は早く何でも出来るようになって欲しかったのに、今では頼もしい背中を見て「もう少し手を繋いで」「もう少し泣いても良いよ」「もう少し 6歳のままでいて」などと思ってしまうのは勝手な親心ですね。昨年度から続くコロナ禍で制限の多い一年でした。その中で出来る事を見極め試行錯誤しながら子ども達の「やりたい事」をたくさん経験させてくださった事、本当に感謝しています。親子共々YMCA幼稚園で過ごした日々は宝物です。ありがとうございました！

健康教育

「ちはるリーダー、そつぎょうってどういうこと？」と首を傾げた6歳の女の子。毎週一緒にプールに入っていました。これまで一緒に活動していた時間がどれほど大切で、あたたかいものだったかを噛み締めていると、「えーっ！リーダー40歳ぐらいかと思ってた…」との声。この春、大学卒業を目前にして、今はメンバーとの別れが寂しくて寂しくて仕方がありません。

4年間、スイミングやアドベンチャージュニア・クラブ、季節のキャンプなど多くの活動でお世話になりました。春は、支援を必要としている子どもたちと川遊びに出かけ、一年前は怖くて近づけなかった滝に、恐る恐る手を伸ばしたメンバーの成長をみんなで喜びました。夏は網地島で満点の星空を見上げ、来てよかったと心から思いました。秋はキャンプ場で粉からうどんを作ったら、スーパーで売っているうどんがいかに美味しいのを知りました。そして冬は、天気にも恵まれた最高のスキーキャンプで、メンバーの一生懸命な歌声を聞いて涙が止まらなくなりました。どれもこれも、YMCAでなければ経験することができなかったものです。子どもたちとどのように関わればいいのか、悩みは尽きませんでしたが、それでも皆さんの愛情を受けてリーダーを続けてくることができました。YMCAが誰にとっても居心地の良い場所であり続けることをずっと願っています。

井上千晴 リーダー



維持会費

皆様のお支えに、心より感謝申し上げます

(1月1日～2月28日)

◆一般会員

・維持会員 A会員/10,000円、B会員/20,000円、C会員/30,000円

A会員 佐々木 絹子さん 草野 博樹さん 児玉 由子さん 安田 匡志さん 鏡 慶一さん
木村 俊介さん 布施 直之さん 坂本 育子さん 木内 利則さん 西田 猛和さん
太田 嘉嗣さん 深野 稔生さん